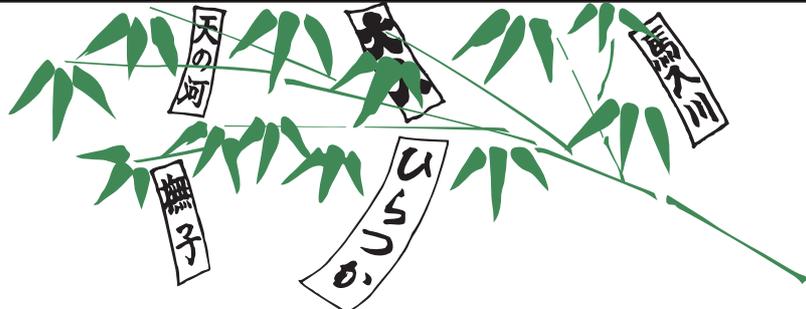




2011~2012年度 国際ロータリーテーマ

Reach Within to Embrace Humanity

「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」



HIRATSUKA R.C. WEEKLY

- 会長 杉山善弥 ● 副会長 牧野國雄 ● 幹事 鶴井雄仁 ● 会報委員長 小野 学 (2011~2012年度) E-mail: hiraturc@ma.scn-net.ne.jp
- 例会日 毎週木曜日 12:30~13:30 ● 会場 グランドホテル神奈中 平塚2F ● 事務局 平塚市松風町2-10 平塚商工会議所内
- 四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

第2799回 2011年7月28日 グランドホテル神奈中 週報第2799号

本日の卓話者ご紹介

小田原報徳実践会 会長
田嶋 亨 様



卓話

二宮尊徳の教えを現代に生かす 「活力と魅力ある人づくり」

小田原報徳実践会 会長 田嶋 亨

3月11日の東日本大震災で被災された多くの皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に一日も早い復旧、復興をお祈り致しております。あの日から既に四カ月以上を経、抜本的な措置もないままに日々を過ごされている皆様のお気持ちを考えますと適切な言葉すら見つけることができません。希望を捨てず、例え少しずつでも前向きに考え行動して戴きたいと切に思う次第でございます。

国の現状は、尊徳翁の人生観における原点と相通ずるものがあると考えられます。この度の災害に対しての国、地方自治体の考えが一つにまとめられいち早く行動に移し、結果、関わる全ての人々の賛同を得るものでなければならないのですから…。併せて尊徳翁だったら現状に対しどの様に指示し更にどの様な結果をもたらすのか、考えずにはいられません。

尊徳翁を語るには、その入口として全国各地の学校をはじめ、公共施設に6万団体以上あるといわれる「柴を背負った少年二宮金次郎像」を欠かす事はできません。この像の原点は、小田原市栢山村から8里(約30km)もある矢佐芝村への山道を柴拾いに通った金次郎12歳頃の姿です。1787年7月23日金次郎は栢山で三人兄弟

の長男として生まれ、祖父、両親共に何不自由のない暮しでした。しかし、その後たび重なる自然災害で田畑は流出し、農作物も作ることができなくなったのです。病弱だった父、利衛門にかわり11歳の金次郎が復旧工事に出るものの力不足を自認、夜なべをして大人達のわらじを編み提供し続けたのです。この様に金次郎はいつも一歩先を見てどうしたら相手が喜びかつ納得する結果を得られるかを考え行動していたということが窺えます。12歳の時には旅の苗木商から200本の松苗を購入し、洪水から田畑を守る為に酒匂川の土堤に植えました。13歳で父を、15歳で母を病気で亡くした金次郎は、伯父、万兵衛宅に、二人の弟達は亡き母の実家へ引き取られる事になりました。金次郎の本当の苦労はここから始まったのです。私は、「蛙」の生き様に例え、少年時代、小田原での金次郎を「おたまじゃくし」、栃木県桜町時代を「かえる」としてお話させていただく事があります。更に「三つ子の魂百まで」といわれる如く、正に小田原で過ごした幼、少年時代の多くの経験こそ後の金次郎の人生観の礎であったと言っても決して過言ではないと考えます。

祖父から父へ相続された田畑は二町三反五畝。更に「栢山の善人」と言われた父は、他人に金銭を工面する事をいとわず、さらに自らの病の為に田畑を売り払ってしまったのです。極貧ともいえる状況の下での相次ぐ両親の死を始め、たび重なる試練に金次郎は強く立ち向かいます。昼は伯父を手伝い、夜は菜種油で灯をともし勉学に励みました。友人から譲り受けた種を仙了川堤に蒔き7升~8升を収穫、また空き地に捨て苗を植え一俵(60Kg)の米を得るなど、後の金次郎の生き方に大きな影響を及ぼす経験を積んだのです。23歳の時には1町4反の土地を持つに至り、伊勢、京都、奈良、大阪を旅する等して「見聞」を広めると同時に、近くでは小田原の町中の銭湯を情報収集の場としてたびたび訪れたのもこの頃でした。25歳で小田原藩家老の若党の重責につきました。当時のエピソードとして、会計の責任者であった金次郎の元へ給料の前借りに来た女中さんに対し「今、どの様にしてカマドに火をつけているか? 何本の薪でご飯が炊けるか?」等質問し、答えられない女中さんと共に現場へ行き、薪のくべ方、炊きあがった後の火の始末に至るまで細かく指導したのです。その内容は、「カマドに火をつける時は薪をイカダに組み三本に点火する。」「炊きあがったら残った薪は炭つぽに保存し次の

<出席報告>

本日 7月28日	会員数 56名	対象者 50名	出席者 38(32)名	出席率 64.00%			
前々回 7月14日	会員数 56名	対象者 50名	出席者 43(38)名	出席率 76.00%	MUP 2名	計 40名	修正率 80.00%

日に使用する。」都度、何本の薪で炊き上げるかを聞き、その本数よりも少なく済んだ分を買い上げ給与として支払ったともいわれています。些細なことでも必ず相手と確認し合ったという金次郎らしい逸話といえます。また、現在の信用組合、信用金庫の考え方の元となった五常講(むじん)を試みたのもこの頃でした。そして、30歳の時には三町八反という広大な田畑を所有するにいたったのです。金次郎は当時、普通では考えられない手法を用いて財産を増やしていきました。その方法とは、土地を買い田畑を作り、その土地を人に貸したり、更には売却したりするといったユニークなものだったのです。33歳の時には、波子(15歳)と再婚、小田原藩の名主役格に登用されました。そして、大久保忠真公より栃木県桜町の再興を命ぜられ、田畑は勿論、家財一切を売り払い桜町へ向かいました。正に「一家を捨て万家を助ける」心情だったと思われます。人生の後半、金次郎の栃木県での生活のスタートです。ここでの仕事は、今までの様々な制度を大きく変えなければならない為、金次郎として思うようにはいかず、何度となく辞表を出すものの受理してはもらえませんでした。42歳の時には、成田山に赴き21日間の断食水行を行いました。丁度その頃、ようやく金次郎の考え方や行いを理解した村人たちの熱い想いもあり、二年後44歳の時、桜町領の第一期仕法が終了したのです。この後、報徳仕法を十分活用し何と六百を越える村々を復興に導いたのです。45歳を迎えた年におこった天保の大飢饉に際し、金次郎は口にしたナスの味の異変から大凶作を予知し予め対策を講じ被害を最小限に食い止めました。数多くある金次郎が成し遂げた偉業の中でも52歳の時に行った福島県相馬における財政改革の手法は170年以上を経た現在でも輝きを失っていません。しかしながらその後の金次郎には、他の地方でのあまりに偉大な功績に対する妬み等から、小田原に戻り更に報徳仕法を確立してゆきたいと思う気持ちも受け入れられる事なく、仕法は廃止されその上百姓の出である事を理由に墓参りまで拒否されるという、誠に辛い日々が続いたのです。金次郎の母、よしさんのご実家は小田原市の曾我にあり、今でも大きな建設会社を営まれております。以前、先代に伺ったお話では、「地元では、金次郎と呼ばれ続け、尊徳とも称されるようになったのは55歳を過ぎてからだだった」とのお話でした。

最後となりますが、私も今この国難ともいえる現状を「報徳仕法」を礎として実践、打破して頂きたいと強く願う一人であります。

◎金次郎の人生観◎

先見性・実践・現場・現物・即行

- ① 想念と発声
- ② 経済に伴わない道徳は寝言にすぎない
道徳に伴わない経済は罪悪に結びつく
- ③ 荒廃地を座視するは人道の大罪なり
- ④ 譲って損なく奪って益なし
- ⑤ 一日一文字ずつ習えれば一年で三六五文字覚えるぞ

我々は子供や孫達に何を伝えていくのか。この小僧
活力と魅力ある人づくりについて。

田嶋 享 様 プロフィール

【氏名】 田嶋 享 【住所】 小田原市中町
【生年月日】 昭和10年4月
【役職】 株式会社報徳農場 代表取締役社長
NPO法人わかば会 代表理事・ヤオマサ
株式会社 名誉会長・社団法人 倫理研究

所 参事・全国報徳団体連絡協議会 会長・
小田原報徳実践会 会長

<会員報告>

● 升水一義 会員

皆様に協賛いただき作製した七夕飾りは、平塚青年会議所をとおし岩手県の陸前高田市へ贈られました。前田理事長より礼状を頂きました。

各位

平成23年7月吉日

陸前高田市への「七夕飾り」協賛のお礼

社団法人 平塚青年会議所
理事長 前田孝平

拜啓

炎熱のみぎり、貴社いよいよご隆盛のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。陸前高田市への七夕飾りご提供の際には、その主旨を快諾頂き誠にありがとうございました。平塚商工会議所福澤正人会頭、平塚商店街連合会升水義一会長をはじめ多くのご協賛を頂きました企業皆さま、本当にありがとうございます。下記の如く現地へ赴き、七夕飾りを上げて参りましたので、ご報告並びに略儀ながら御礼を申し上げます。今後とも宜しく願い申し上げます。

敬具

記

設置場所 岩手県陸前高田市竹駒町字仲の沢181
陸前高田市 竹駒小学校(竹駒町仲の沢仮設団地内)
設置日 平成23年7月12日(火)
設置期間 平成23年7月12日(火)～8月の同市七夕祭りまで
以上



<幹事報告>

◎第34回平塚市展会期終了の報告とお礼

協賛金は入賞者の副賞、記念品に当てられました。(入賞者を回覧しております。)

*表彰式には桐本前会長が出席しました。

◎大磯RCより「相双メディカル誌」が送られてきました。発行者「世界こども財団」は大磯RCの宮澤保夫会員が創立したもので、増刷の100部より分けていただきました。各テーブルで回覧しています。

<メーカーアップ>

2名
清水 裕・杉山幹生 会員

<ゲスト>

田嶋 享様 (卓話者)

<本日のスマイル>

10名

<卓話・行事予定>

8月11日(木) 休会(定款による)
18日(木) 地区会員増強委員
高橋宏昌 様(伊勢原平成RC)
25日(木) プログラム委員会
9月1日(木) ガバナー補佐訪問
樋口大人 様(平塚北RC)
8日(木) ガバナー公式訪問
森 洋 様(横須賀北RC)

<市内例会変更>

現在ありません。